

武田 靖弘 (タケダ ヤスヒロ)

本州化学工業株式会社社長



## 収益力のある事業構造への変革に向けた 諸施策の積極的展開

### ◆当社の特徴

当社は、1914年に和歌山市において創業して以来、フェノール誘導品に特化し国内外において事業を展開している。当社は、主原料のフェノールおよびメタパラクレゾールを三井化学から購入し、これを使用して各種のフェノール誘導品の製造を行い、顧客である樹脂、フォトレジスト、医薬品の各メーカーに中間原料として販売している。当社は、1988年にビスフェノールA事業を旧三井石油化学工業に譲渡したのを機に、ファインケミカル製品を主力とした事業構造への転換を図っており、またバイエル社向け特殊ビスフェノールの生産販売拠点としてハイビス社をドイツに設立するなど海外への事業展開も積極的に行っている。

当社は、将来のマーケットにおいて自社の強みを発揮できる製品を特に「コア製品」※と位置付け、これを見出し、育成、強化・拡大を図っていくことを事業運営上の基本方針としている。

※ 「コア製品」とは、①成長する市場がある②独自技術が活用できる③世界のマーケットシェア1位または2位であることの3条件を満たす事業と位置付けており、現在は“ビフェノール”、“特殊ビスフェノール”、“フォトレジスト材料” および “トリメチルフェノール（ビタミンE原料）” の4事業がある。

### ◆2008年3月期中間期実績

#### ■事業環境とコア製品の販売状況

ビフェノールの国内需要とトリメチルフェノール（ビタミンE原料）の欧州向け需要が堅調であったものの、原材料価格が高騰する中で、ビフェノールと特殊ビスフェノールの海外向け需要が減退するとともに、半導体・LCD向けのフォトレジスト材料の需要がいずれも低迷したため、引き続き収益圧迫要因を抱えた厳しい事業環境の下に置かれた。

コア製品の販売状況は、次のとおりであった。

#### 【高機能樹脂原料部門】

##### ●ビフェノール〈液晶ポリマー（LCP）原料〉

ビフェノールは、耐熱性、精密成形性に優れた“液晶ポリマー（LCP）”（パソコンや携帯電話等の電子部品に使用）の原料として、今後共需要が拡大していくものと見込まれている。

当中間期においては、国内向け販売がIT関連機器やデジタル家電の需要伸長により堅調に推移し、前年同期に比べ増加したものの、輸出は競合他社との競争激化により不調であった。

##### ●特殊ビスフェノール（特殊ポリカーボネート樹脂・特殊エポキシ樹脂原料）

特殊ビスフェノールは、耐熱性、光学特性に優れた特殊ポリカーボネート樹脂や特殊エポキシ樹脂の原料として使用されており、特殊ポリカーボネート樹脂は自動車用部品や光学用電子部品向けに、特殊エポキシ樹脂はエポキシ封止剤・積層板向けに需要の増大が見込まれている。

当中間期においては、バイエル社向け特殊ビスフェノール（特殊ポリカーボネート樹脂原料）については、ユーザーサイドでの製品在庫調整により需要が減退したため、販売不振であった。

#### 【高機能化学品部門】

##### ●フォトレジスト材料

フォトレジスト材料は、半導体、液晶ディスプレイ（LCD）の製造過程で使用されている。

当中間期においては、半導体用およびLCD用のいずれも需要が低迷したため、販売が伸び悩んだ。

##### ●トリメチルフェノール（ビタミンE原料）

メタパラクレゾールの誘導品であるビタミンE原料のトリメチルフェノールは、家畜用飼料の添加剤として使用されている。

当中間期においては、欧州向けの輸出は好調を維持したものの、中国向けの輸出は環境保全規制強化に対応したユーザーでの生産調整により減少した。

## ■トピックス

### ●精製BHT事業の譲受契約締結

クレゾール事業の基盤強化を目的として、当社製品C-BHTのユーザーである(株)エーピーアイコーポレーションから精製BHT事業を譲り受けるため、2007年7月当社と事業譲受契約を締結しており、現在当社和歌山工場に建設中の製造設備の商業運転開始予定時期である2009年1月に当該事業を譲り受けることとしている。

### ●メタルフリー化設備の増設

フォトレジストの高純度化ニーズに対応するため、2007年6月和歌山工場のメタルフリー化設備を2系列から3系列に増設し、50%の能力増強を行った。

### ●特殊ビスフェノール専用製造設備の新設

バイエル社向けの特殊ビスフェノールの今後の需要増加に対応するため、当社は、安定的生産体制を確立するため、2007年3月和歌山工場に専用の製造設備を完成させ、試運転を経て2007年7月よりバイエル社に品質評価用製品の供給を行っている。

## ■連結業績概要

### ●全般

売上高は94億13百万円（前年同期比1.3%減）、経常利益8億50百万円（同18.2%減）、中間純利益4億55百万円（同13.7%減）であった。

### ●部門別売上高

#### 【高機能樹脂原料部門】

国内外を合わせたビフェノールの売上高はほぼ前年同期並みであったが、当社が製造販売する特殊ビスフェノールの売上高は前年同期に比べ減少したため、部門売上高は32.9億円（前年同期比8.6%減）となった。

#### 【高機能化学品部門】

フォトレジスト材料の売上高がほぼ前年同期並みであったものの、トリメチルフェノール（ビタミンE原料）の売上高が増加したため、部門売上高は50.3億円（前年同期比1.2%増）となった。

#### 【その他化成品部門】

受託生産品の売上高が増加したため、10.9億円（前年同期比13.5%増）となった。

総売上高の変動（前年同期比1.3%減の1.2億円減）の要因は、価格差1.9億円増と数量差3.1億円減によるものである。

### ●利益

経常利益は、当社単体ベースでは前年同期比7.3%増の7.8億円であるが、ハイビス社からの配当を控除した連結ベースでは、8.5億円（前年同期比18.2%減）であり、中間純利益についても、当社単体ベースでは同43.9%増の6.11億円であるが、連結ベースでは4.55億円（同13.7%減）であった。

### ●貸借対照表

資産は、在庫増による流動資産の増加と設備投資の増加により、前年同期の213.5億円から238.2億円に増加した。

負債・純資産は、当社での積極的な設備投資により借入金が増加した。

株主資本比率は43.6%（前年同期44.5%）、D/Eは0.58（同0.55）となった。

### ●キャッシュフロー

営業キャッシュフローは、当社9.0億円（前年同期9.4億円）、ハイビス社6.3億円（同3.6億円）、投資キャッシュフローは、当社マイナス15.0億円（同マイナス6.5億円）、ハイビス社ゼロ（同マイナス0.3億円）、財務キャッシュフローは、当社8.4億円（同マイナス3.5億円）、ハイビス社マイナス3.7億円（同マイナス4.5億円）であった。

## ◆2008年3月期通期見通し

### ■事業環境

今後も原材料価格が高騰するものと見込まれるが、部門別の見通しは、次のとおりである。

#### 【高機能樹脂部門】

ビフェノールは、国内販売が引き続きIT関連機器やデジタル家電の需要堅調を背景におおむね順調に推移するものと見込まれるが、輸出については競合メーカーとの競争激化が継続するものと予想される。

フォトレジスト材料は、需要回復基調の中でおおむね堅調な販売を維持できるものと見込まれる。

#### 【高機能化学品部門】

特殊ビスフェノールは、バイエル社向けの需要が在庫調整の影響により引き続き減退のまま推移するものと見込まれる。

トリメチルフェノール（ビタミンE原料）は、欧州、中国向けの需要がいずれも堅調に推移するものと見込まれる。

#### ■2008年3月期通期業績見通し

●売上高193億80百万円（前期比1.9%増）、経常利益14億20百万円（同26.9%減）、当期純利益7億10百万円（同27.7%減）となる見込みである。

#### ●部門別売上高

#### 【高機能樹脂原料部門】

ビスフェノールは前期並みの売上高となるものの、特殊ビスフェノールは需要減退により売上高が減少するため、部門売上高は67.6億円（前期比3.7%減）となる見込みである。

#### 【高機能化学品部門】

フォトレジスト材料は需要回復により前期並みの売上高となり、またトリメチルフェノールは海外需要の伸長により売上高が増加するため、部門売上高は104.5億円（前期比4.4%増）となる見込みである。

#### 【その他化成品部門】

受託製品の増加により、部門売上高は21.7億円（前期比9.5%増）となる見込みである。

総売上高の変動（前期比1.9%増の3.7億円増）の要因は、価格差6.1億円増と数量差2.4億円減によるものである。

#### ●利益

経常利益は、連結ベースで14.2億円（前期比26.9%減）、当社単体ベースで10.5億円（同19.5%減）となる見込みである。

当期純利益は、連結ベースで7.1億円（前期比27.7%減）、当社単体ベースで7.5億円（同1.9%減）となる見込みである。

#### ●投資

連結ベースで20.3億円（前期17.1億円）、当社単体ベースで19.9億円（同16.7億円）、償却費は、連結ベースで16.9億円（同15.7億円）、当社単体ベースで12.3億円（同11.1億円）となる見込みである。

### ◆今後の課題

次のとおり、当面および中期的な課題について諸施策を実行していくこととしている。

#### ■当面の課題

#### ●収益改善策の実施

- ・原材料価格の上昇に伴う販売価格の改定
- ・経営全般にわたるコストダウンの強化徹底

#### ●コア事業の強化・拡大

特殊ビスフェノールのポリカーボネート樹脂用途以外での拡販（新規顧客の獲得）等

#### ●新規事業・製品等の育成促進

- ・次期コア製品候補の感光性ポリイミド材料<sup>※1</sup>や特殊エポキシ材料（ビスフェノールF）<sup>※2</sup>の拡販

※1 用途は半導体素子の表面保護膜

※2 用途はノンハロゲンタイプの難燃性積層板や粉体塗料（大口径の耐震性水道鉄管内面コーティング）。

当社は、ビスフェノールFの需要増大に対応した安定的生産体制を確立するため、生産能力の増強（2008年2月完工予定）を行うこととしている。

- ・次世代フォトレジスト（EUV）に対応した材料の開発加速

#### ■中期的課題

現在策定中の「2008年度中期経営計画」<sup>※</sup>の達成

※ 今後の持続的成長とさらなる発展に向けて、2008年度を初年度とする2011年度までの4カ年中期計画を策定（2008年1月完成予定）

（平成19年11月28日・東京）